

NO.26

2017.3.1

発行 佐久市有機農業研究協議会(発行責任者:夏川周介)【構成】佐久市・JA佐久浅間・佐久総合病院・佐久市農業委員会臼田地区委員会

ゆうきのうぎょうさく

〈事務局〉長野県佐久市臼田787 (一財)農村保健研修センター内

TEL 0267-82-5800 FAX 0267-82-5801 URL <http://nouson-rhtc.jp/>

活動の紹介は <http://nouson-rhtc.jp/yuukinougyo/> [佐久市有機農業] [検索]



土にふれ野菜を育ててみませんか



自分で野菜を育て味わいたいと思っている方はいませんか。農業体験を通して安心で安全な食を理解していただくために、佐久市有機農業研究協議会では、農園を市民に開放しています。毎年利用者から「土にふれて野菜を育て、食べることができるのは楽しい」「いろいろ協力してもらえるのでありがたい」という声が聞かれます。はじめての方でも大丈夫です。

場 所 佐久平総合技術高等学校臼田キャンパス東、佐久総合病院佐久老健西側の転作田

募集区画 24区画(1区画約40m²) ※原則1戸1区画

使 用 料 1区画年間3,000円 ※使用料納入後に途中解約した場合は、使用料の返金はありません。

使 用 期 間 平成29年4月8日から11月末日

申しこみ 3月13日(月)から21日(火)の平日

(一財)農村保健研修センター窓口にて申込用紙に必要事項を記入。結果は後日お知らせいたします。

※新規申込者を優先。応募多数の場合は抽選により決定いたします。

開園式 4月8日(土)午前10時より、実験農場管理棟にて区画割り抽選、利用上の説明、農園の栽培指導など

問い合わせ 電話 0267-82-5800

冬の野菜づくりは「健康づくり」

本活動も6年目になり、修了された多くの方が学んだ事を実践されています。
その中から、平成26年度に参加された佐藤さんご夫妻にお聞きしました。



Q.1 冬の野菜づくりは「健康づくり」参加のきっかけは?

横浜から佐久に来て初めてキャベツを植えたが上手く出来ませんでした。そんな時、ちょうど本紙の回覧でこの活動を見たことやご近所からいただきました野菜が美味しかったことです。

Q.2 半年間の活動の感想は?

冬でも野菜ができるんだあと驚いたことと、とにかくおもしろかったこと。大雪の日も歩いてハウスまで行きました。ラジオ体操を毎日行う予定でしたが、健康づくりで学んだストレッチと野菜づくりが代わってくれました。

Q.3 卒業後は?

農業用ハウスの材料をタイミング良く頂き、庭先に建てることができました。1ヶ月毎に種を蒔きほぼ自給、育てた野菜が食卓にならぶ生活を楽しんでいます。また、周りの方々に恵まれたこと、人の繋がりができたことが財産です。

たくさんの野菜が育つ(1月)



Q.4 これからは?

こんなにすばらしい活動に関わりたい人はたくさんいると思う。私たちのように他県から来た者とお互いに情報交換ができる場を続けていただき、私も応援団としてたくさんの人々に広げていきたいと思っています。

*本活動について知りたい方は事務局までお問い合わせ下さい。

学習会開催

土づくりは人の健康に通じるところがあります



あなたの畑・ハウスの 土は「健康」ですか

土の酸性度
(pH)は体温に
養分(塩類濃度)
を測る電気伝導度(EC)は血圧に



多くの作物は pH 5.5~6.5 の範囲であれば土の養分をよく吸収します。酸性度、アルカリ度がともに強すぎても養分の吸収が悪くなりますので作物に合わせて適正な土壤に改善しましょう。また、肥料をまき過ぎて養分が多く残っていると作物の根の活力が下がってよく育ちません。土の電気伝導度(EC)を調べると、土の養分量の目安がつかめ、無駄なく肥料を使うことができます。

この pH と EC は専用のメーターで簡単に調べることができます。当協議会は 2 年前より測定と学習の活動を行っており、皆さんのが持ち寄った畠やハウスの土を測定し、土づくり・肥料の使い方についてアドバイスします。pH・EC を含む詳しい土壤診断(専門機関による)についても説明します。都合のよい日に申し込みください。

開催日時 第1回 4月11日(火)集合9時半:12時終了

第2回 7月 5日(水)集合9時半:12時終了

第3回 11月※9月発行の本紙でお知らせします。

場 所 当協議会・実験農場管理棟

(一財)農村保健研修センター西側

参 加 費 1 試料 200 円(一人 2 つまで。当日徴収。)

申込先 実験農場 TEL 0267-82-5966 平日 9 時~17 時受付
※各回 20 土壤試料で締め切ります。

担当講師 佐久農業改良普及センター主査 佐々木深雪

当研究協議会・実験農場長 川妻千将

当日は測定したい土を
よく乾燥し細かくして
茶碗一杯お持ちください。



地表のごみ等を取り除き、上
下の量が等しくなるよう深さ
10cm~15cmで柱状に採る。
1つのほ場で 4~5 力所から
採土し 1 つにまとめる。



土づくり講演会が 開催されました。



昨年に引き続き、12月8日、東京農業大学名誉教授の後藤逸男先生による講演会が佐久市コスモホールにおいて開催され、約110名が参加しました。これは土壤診断に基づく科学的な土づくりを広く普及する事を目的としています。

今回は「土を健康にするための『土づくりの基本と肥料の使い方』」として、土壤診断に基づいた施肥により土がメタボ(肥料分過剰)にならないようにすること、生ごみ・有機質(特に緑肥)を活用し窒素をじわじわと効かせる栽培などについて現地事例をもとに説明されました。講演後、参加者から寄せられた質問にも一つ一つ丁寧に回答いただきました。

参加者は自給・家庭菜園に取組んでいる人が半数以上を占めましたが、わかりやすく参考になったという方が多く、また若い専業農家からも「今まで漠然としていた土づくりについて整理がつき、これからの方針性が固まった」という感想が聞かれました。